

総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 会 平成27年10月22日 午前 9時17分
- 2 閉 会 平成27年10月22日 午前11時15分
- 3 場 所 保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員

出席委員

委員長	米 谷 正 造
委員長職務代理者	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	下 山 洋 子
委 員	三 宅 眞砂子
委 員 (教育長)	山 中 榮 輔

- 5 会議に出席した者

教育次長	矢 吹 政 行
参与兼庶務課長	三 村 和 久
学校教育課長	東 長 典
こども夢づくり課長	河 相 祐 子
生涯学習課長	柚 木 均
文化課長	尾 崎 啓 一
生涯学習課社会教育主幹	風 早 千 帆
学校教育課指導主幹	下 山 郁 子
庶務課主幹	西 村 佳 子

- 6 会議録署名委員

下 山 洋 子	三 宅 眞砂子
---------	---------

- 7 議事の概要 別紙のとおり

開会 午前9時17分

米谷委員長 ただいまから教育委員会を開会いたします。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、下山委員、三宅委員の2名にお願いします。

この教育委員会には、議決案件が上程されておりませんので、まず教育長の報告からお願いします。

山中教育長 【教育長報告】

それでは、前回9月29日でしたので、それ以降の主だった行事等をご報告いたします。

10月9日に岡山県の都市教育長協議会がありまして、地方創生に教育がどう関与するかという内容で議論があったんですが、岡山、倉敷、総社を除いては、ほとんど人口減少対策でした。ところが、笠岡は消滅都市になっているので、来年度から小中学校の統廃合を進めようとしていたのですが、5年間凍結することに変えたようです。

それから、ちょっと総社に似ていますが、赤磐市は、今年から学校支援予算という自由裁量の予算を、各校に100万円ずつ配ったそうです。それ以外は、あまり取り立てて新しいことはやられていなくて、皆さんどうしたらいいか苦慮しているという状況でした。

それから10月16日に、市の部課長会議の席で、市長が、8つぐらいやりたい課題を話されまして、その中の一つが、発達障がいの子供達への対応に力を入れたいということでした。それからもう一つは、これからハードへの投資が非常に多くあるということで、教育委員会の場合は総社小学校、学校給食共同調理場、美術館がありますが、それらをどういう優先順でやるか。そして、もう一つ言われたのは、総社保育所と井尻野幼稚園を2つ一緒にして建替えて認定こども園化するという話がありました。こういうものを全部ひっくるめてもう一度優先順をきちっと評価したいということでした。

それから、昨日、岡山県教育事務所で教育長の連絡協議会がありましたが、主に人事関係の話と、学力向上など来年度予算への対応も含めて説明がありました。あまり例年と変わっていませんが、できるだけ加配を増やしていきたいということでした。定数を増やすのではなく、加配を増やして効率的にやっていきたいというのが大きなポイントでした。

矢吹教育次長 【議会の内容について説明した。】

米谷委員長 ただいまの報告について何かご質問等ございましたらお願いいたします。

山中教育長 先ほどの井尻野幼稚園と総社保育所は、統合してこども園化して、30人ぐらい定員を増やすという案を作っていたんですが、現場を見てみると、どちらにしても新しい土地を用意して建てないと、今のままの運用をしながらは、物理的にも難しい。どこかに仮校舎を建てないといけないとなると、ざっとみても7億というお金になるんです。そうですね？

矢吹教育次長 はい。

山中教育長 でも7億円で納まるかどうか。耐震補強の問題はあるんでしょうけど、分離型

でもやれないことはないです。統合してこども園にする意味はどこにあるのかということも、もう一回きちっと議論した方がいいと思っています。かなり老朽化をしていますので、それぞれ耐震診断、補強をして、少し施設整備をやる。井尻野幼稚園は耐震診断をしているので、1000万円あまりで補強、整備ができると認識していますが、総社保育所は何もやっていないんです。早めにきちっと診断をするべきだと思いますので、今度の補正予算で耐震診断経費を計上したいと思っています。そういう議論をさせていただいてから、どうするかを決めたいと思っています。

三宅委員 本当に総社市の現状を考えると、こども園で統合する必要があるかどうか非常に疑問を感じます。

山中教育長 僕はないと思っています。あれは元々、民間に建てさせて、そのお金を支援するというのが前提です。国は手を離したいんです。今は補助金をたくさん出していますが、どこかで切りたいと思っている。官営で建ててあとどうするんだということですから、必要最小限の手当てをするということだと思います。そういう議論をちょっとさせていただいてから決めたいと思っています。

米谷委員長 他に何かご質問等、ご意見等ありましたらお願いします。

先ほどの市長の改革ですが、待機児童対策やきよね認定こども園については、今までずっとやってきた歴史があると思いますが、発達障がいの子どもの対応については、学校では支援員の方がきめ細やかな支援をされているようですが、それ以外に展望としてどういうことを考えているんですか。例えば、私は職場が福祉の大学ですので、全ての教員がそういう知識を身に付けるように言われているんですが、そういうような対応はどういうことを考えていますか？

山中教育長 これから議論させていただきたいと思っていることがあります。発達障がいの子どもについて、モデルが松江市にあるんですが、今我々が考えているのは、例えば、通級をしながらいろいろな指導が受けられるセンター的な仕組みをどこかの小学校に作り、県からポテンシャルの高い教頭や副校長を入れて、そこで専門性の高い教員を養成もし、そこに行けばいろんな情報を得られるといった研修センター的な要素も入れたいと思っています。それは一気にはできませんが、昨日、岡山教育事務所で、一応試案的なものについてちょっと話をしました。校長会といろいろとコミュニケーションをしていて、一応意思統一したことを、岡山事務所に言っています。来年度すぐにお金が付くかどうかは極めて疑問ですが、再来年度ぐらいには付くと思います。もっと将来のことを考えると、総社小学校を建て替える時に、教員の研修とセンター的なものを入れたい。それ以外に市の持っている機能もありますので、それもサポートするような全体の仕組みを考えていきたい。

先日、市は市長が言われたことを戦略的に進めるために5つの部会を作りまして、その中に教育改革部会があるんですけども、その中で考えていこうと、今進めているところです。

三宅委員 その件に関しては、5年ぐらい前から地域連携ということで、福祉協議会とか教

育委員会の方にも入っていただいて、発達障がいのある会をやっています。その中の声で、やっぱり生まれた時から教育。それから最後亡くなるまで総社でちゃんと暮らしていきたいと。今、発達障がいの子どもなど、ちょっとした支援の必要な子供達が増えてきている。それを全部支援学級で見るとは難しいので、普通クラスの中で、ちょっとした配慮ができるようにスキルを身に付けていく仕組みを作っていきたいということで活動しています。4歳児の発達支援ができたので、小中学校だけではなく、保育・幼稚園の中でも、そんなセンター的な施設を作ったらいいねという提案が出ているので、そこのところも考えていただきたいなと思います。民間の保育所だと難しいと思いますので、きよね認定こども園、総社保育所や幼稚園の先生のレベルをしっかりと上げていただいて、そこでできるようにしていただきたいと思います。

山中教育長 仰るとおり、今第1セットとして“誰行き”を幼稚園に入れて、次は、幼稚園や保育園の教員のレベルアップをやらないといけないと思っています。そのために今進めているのは、中国学園大学と連携して教員教育をやらうということです。それからもう一つは、支援のシステムをどうするかです。今は保健福祉部と分かれています。例えば全部我々が取り込むことも難しいので、どういう形で機能分担をするかです。横断的な組織を作っていないといけません。しかも、保育園・幼稚園という幼児の部分は大事ですが、市長は就職までを考えています。小・中学校には、そういうフォローシステムがないので、そんなにハードなものはいらないと思いますが、そこから高等学校に繋がる全体構想的なものを、この部会の中で提案してやっていこうと思っています。それによってどういう風に組織を変えていくかです。組織を変えることありきじゃ駄目だと思っています。教育委員さんともしっかり議論させていただいてから進めたいと思っています。

三宅委員 よろしくお願ひします。

米谷委員長 他に何かございましたら。よろしいでしょうか？

また今後ずっと議論されるということですので、その後でまたご意見、ご知恵をいただけたらと思います。

米谷委員長 次に、「協議事項」に移ります。「学校健診データの利活用について」事務局から説明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

三宅委員 身長と体重について吉備医師会と共同でさせていただいたんですけど、小学校から中学校に対して照合がいつてなかったと思うんです。あれだけのデータが総社市内で揃うのがちょっと疑問なんですけど、どうなんですか？

東学校教育課長 現状は、それぞれの健康診断表が上がっていき、確実に引き渡されていきますが、データ化された状態で受け渡されているのかは分かりません。それができることに

なれば意味があるものになるのかもしれませんが。ただ、最初のお話を聞いていたら、小学校1年生から中学校3年生まで全ての学年の子供達の診断表をスキャンして作っていくのかなと思ったんですが、結局詰めていくと、中3だけだと仰るんです。それは彼らの作業の効率が悪いからだと思いますが、中3だけをするということなので、それが卒業間際に返ってきても何に役立つのかが実際にはよく分からない。理想は、小さい時のものがあって、それが次へ、学校で生活している間に受け継がれていくということであれば、意味が幾らかあると思うんですが、現状では、学校でデータの受け渡しが十分にできていない可能性があるかと思えます。

矢吹教育次長 私もこの話を直接聞いたんですが、来られた先生が言われるのは、例えばそれを就学前の健康診断や検診と結び付けていけば、非常に有効に使えるということでした。また、中学3年以降の医療機関のレセプト情報や個々の検診の情報と結び付けていけば、トータルにいろいろ考えてできるというようなことも言われるんですが、現実一人一人を結びつけることは、マイナンバーで括ってしまうとかでないかと有り得ないし、それは非常に長いスパン、何十年のスパンで考えなければどうにもならないことです。言われることは、将来的には素晴らしい、日本全体の健康情報が一括管理できるような大きな計画なんだろうが、目の前の中学3年生のデータの固まりだけを取っても、それを具体的に役立てる方策をなかなか見出せないということです。全体の大きなことは言われるけれども、目の前でできることはほとんどないのかなという気がいたします。

三宅委員 今日、健康管理の研修会を吉備医師会でやります。この中で、3年間学校で成長曲線を書いていただいたものをまとめて発表するんですが、その成長曲線を書いていただくために、幼稚園から小学校、小学校から中学校への伝達形式の体重・身長ができたので。個別に返していくというのはちょっと難しく、全体のマスとしての総社市内の子ども達の傾向が分かるので、それが一つのメリットかなと思います。個人情報との絡みでどこまで協力できるか。教育委員会にも御協力いただいておりますし、総社市内の検診の1つのまとめです。そのマスとしての結果が出ますので、参加してください。

山中教育長 目的がはっきりしないのです。先生が仰ったように、この目的はおそらく全体の傾向を見たいということだと思います。無理やり個人にフィードバックすると言っていますが、フィードバックしても個人毎にどうアクションをとるか、子供達がどういう生活をしてきてこうなったかということが何も無い。それと、リスクがあまりにもあり過ぎます。県は、基本的に個人情報に関するアンケートについては一切出してはいけないという考え方なので、どうしても出すのであれば、総社市が自分の責任においてやりなさいという話です。自分達でスキャンして、シールをかけて出すならいいですが、どれだけのメリットがあるのかよく分からない。

下山委員 今までの話を聞いて、私もこれには反対です。いろいろな個人情報を出すので、保護者にその了解を取る必要がありますし、やはり中3の段階ですとなると、その後に活

かされないということもあると思うので、これについては反対です。学力テストの結果は毎年データで保護者に返していますが、その後に活かされているのでいいと思いますが、このことについては反対します。

林委員 中3まで一括して何に使われるのかちょっとよく分かりませんが、やるメリットは子供達にとってないじゃないかというのが結論ですね。今の一人一人のフォーマットを見ても、養護の先生が十分指導できる内容ですし、もっときめ細かい指導がなされていると思いますので、いちいち一人一人いただいても、有難みもないと思います。それよりも、本当なら中1や小1の子供達がどうなっていくのか、どういうことに気をつけていったらいいのかという、結果が活かせるようなデータであればいいんですが、残念ながら義務教育が終わる段階でもらうということについても、あまりメリットはないと思います。

米谷委員長 小鍛治委員、いかがですか？

小鍛治委員 個人情報関係で、リスクの方が大きいと思いますし、本当にこれを保護者が希望するのであれば、個人的にやればいいと思います。

米谷委員長 はい、ありがとうございます。

私も皆さんと同様の意見であり、協力する必要はないと思います。

米谷委員長 意見も出尽くしたようですので、この案件については協力しないことということによろしいでしょうか？

(異議なし)

米谷委員長 次に、「報告事項」に移ります。はじめに、「縣市町村教育長意見交換会について」事務局から説明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

下山委員 総小に業務アシスタントが今年入りましたか？その効果はどうでしたか？仕事内容や感想について教えてください。

東学校教育課長 総社小と総社東中に1人ずつ配置をしています。どちらも大変好評です。特に、どちらも大規模校ですので、教材関係の配り物の印刷をお願いしたら、帰る時まで間に合うなど非常に助かっていると聞いています。ただ、コーディネーターの役割が重要なので、各担任の方々からのオーダーをコーディネートして、どれをいつまでにやってもらって、次をどうするかという段取り係の人は大変ですが、とても有難いというお声をいただいています。

米谷委員長 他にございませんか？

運動部活動支援員60校ということは、60校で足りない種目全てにつくのか、あるいは60名の支援員の方がつくのか、どちらなんですか？

東学校教育課長 人数、頭数だと思います。学校で何人でもということにはならないと思

ます。

米谷委員長 例えば練習を教員がいなくてもできるということが新しいという意味ですね。

東学校教育課長 そうです。

米谷委員長 はい、分かりました。

他に何かございませんか？

下山委員 練習中に顧問が付いていなくても練習できることは非常にありがたいことですが、試合の引率に部活動担当教諭が付いていかないというのは、ちょっとおかしいと思いますがいいのですか？

東学校教育課長 そこをどうクリアされるのか分かりませんが、県としてはそういう方向です。例えば、全く見ず知らずの人がそういう役割で来るというよりも、現に県費の非常勤講師として、週当たり10時間とか、15時間の授業だけに来る方々も中学校にはいます。中には、スポーツの専門性を持っている人もいましたが、その人達は部活動にタッチしてはいけなかったんです。しかし、今度は部活動支援員と兼務という形で、放課後や土日に仕事をする方向で考えて下さっています。そうすると、子供達にとっても、元々学校の職員だった人がそういう役も担うということになるので、信頼関係的にも引率してもよいとなる可能性があると思います。

米谷委員長 たぶん公式の試合は、中体連で取り決めをされていると思うので、何か事故があってもいけませんし、おそらく責任の所在などその辺りのジャッジもされると思います。

林委員 支援員を配置、派遣する目的は、競技のレベルアップのためですか？それとも教員の負担軽減ですか？今までもたぶん、特殊な競技については、外部の人も雇ってやっていたと思いますが、その辺について県教委はどう説明されていましたか？

東学校教育課長 負担軽減の方が主のように聞こえました。全国的に見ると、あまりない制度ということですが、愛知県では導入されているそうです。そこを参考に制度設計をしようと考えているようです。

米谷委員長 次に「新本・池田地区の教育特区の概要案について」事務局から説明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

三宅委員 昭和学区での取り組みで、実際どのような成果が出ているのか教えてください。

東学校教育課長 昨年度から引き続き、本年度も、専科という形で、県から加配で1人教員を多めに配置されています。昨年度については、小学校の授業はその方が1人で取り仕切って、担任の先生はALTの先生と横に付いてやるようなイメージだったんですが、今年度は、特に維新小では、公開する授業であっても、担任が主になってやるのが当たり前になり、学校の先生方が変わってきています。英語の時間に、子供達の方から積極的に楽しく喋る

うとする姿が出てきているので、その影響も受けながら、先生方もこの取り組みを頑張ろうという形にはなっています。

米谷委員長 他にございませんか？

28年度に昭和小に行く子供達の、条件を見直したということですが、手続きはいつまでですか？これから増える可能性があれば、対応が変わるのかなと思いますが、いかがでしょうか？

東学校教育課長 前回のプレゼンで、新1年生で6人ほど特別支援学級、自閉情緒に入ろうとしているお子さんがいるということでしたが、そのうち4人が学区外からでした。学区内の2人については、通常に行こうかという方向になっていますので、今のところ学区外からは4人だけです。そうすると、新たに4人と1人と1人ということで、6人が新たに加わりますので、現在自閉情緒が1クラスのところ、2クラスに増えるんですが、それが3クラスにまではならないと考えています。受け入れ条件を絞るとすれば、11月の終わりで一回区切りをしようかと考えていましたが、これまでどおりのやり方ですと、申し込み期限は2月の終わりまでです。就学通知を1月中旬に各家庭に発送して、その後一ヵ月半ぐらいの中で決断してもらおう予定です。

米谷委員長 今ぐらいの時期に来られている方が、手続きをされているのが今までの現状なので、この数でいくだろうということですね。分かりました。

下山委員 新本・池田の件について現実問題で考えると、例えば新本にくらしき作陽大学の先生が週1日か2日来られて、その日は全部どの学年も音楽の勉強。池田は、環太平洋大学の先生が週1日か2日来られて、その日は全部どの学年も体育の授業が入るというような形になってきますよね。そうすると、授業数がどうなるのかと思いますが、授業時間の組み方は学校と作陽、あるいは環太平洋に任せるんですか？

東学校教育課長 事前にお配りしている資料について何も触れずにすみません。関連授業として書いてある部分ですが、くらしき作陽大学の指導は、毎週必ずかどうかはまだ分かりません。また、その日の時間割が全て音楽関係になることまでは想定していません。教育課程特例として申請しているのは英語のみで、音楽については、通常の音楽の授業時数の中でその内容を充実させるために助言をいただいたり、指導をいただいたりということが一つと、その授業をするために、例えば中学校の音楽の免許を持った方を市費で雇用して、その人が専科のような形でその音楽の授業を担当するようなイメージを持っています。くらしき作陽大学には、放課後等の課外の活動や、特別活動として学校行事に関する取り組みの中で、音楽に関わる部分を指導していただくことを考えています。

池田については、環太平洋大学をこの資料には書き込んでいますが、まだ何も具体的な話は動いておりません。また、運動や体力向上ということについて、まだ池田の地域からも合意が得られているわけでもないのですが、一つのたたき台として作っています。校長先生方にはこの資料を渡してはいるんですが、まだかなり曖昧です。

林委員 アンケートをとられています、地元はどの程度望んでいるのでしょうか。今はどちらかというトップダウンで動いているので、学校のコンセンサスが本当に得られるのかなと心配です。学校もいい、地域もいい、子供にも非常に役に立つというものから具体化していくという方法を考えていけないといけないと思います。全国から子供募集というチラシがあるので、これは定住を念頭においた取り組みだと思いますが、さしあたって定住ではなく、昭和・維新と同じような形で他学区から自由に行ってもいいが、交通手段がないので何か便宜を図らないといけないとなった時に、どの程度のことを考えているのですか。

矢吹教育次長 本来ならば人口減少地域をどうしていくかということを経済と一緒で考えていけないといけないんですが、昭和の場合は、先に英語特区というものが全面に出ました。今回地域に説明に行く時には、政策調整課と一緒にいき、その地域をどうしていくかということを経済の方に考えていただくことも含めてお話をさせていただきました。地域づくり協議会など地域の方には、どちらかといえば英語はいいじゃないかと受け入れられています。ただ、外から来て家を建てるのは土地利用の関係でなかなか難しいので、どうやったら空き家が用意できるか、出て行っている若い人がUターンしてくれるかといったことを、だんだんと地域の方に考えてもらうきっかけ作りはできてきている気がいたします。どちらかという、定住促進が主となり、その方策の一つとして英語の取組みがあるというのが本来の形です。今は、英語が先になっている形から、本来の定住を促進していこうという動きも追いついてきて、地域もそれに対してなんらかの取組みをしていこうという動きも出てきていると思います。

林委員 企業を誘致して働く人が増えた時に、川西でも、職があつて住居があつて、そしていい学校があるという形になっていくのかなと思います。その辺の構想は、どうなっていますか。

矢吹教育次長 昭和の場合は、元々、外からいっぱい来て下さいという取組みをされていましたが、新本・池田はそういった形が今までできていないので、むしろ出て行った若い人達が、帰って家を建てて、故郷で子供を育てようかという動きや、田舎暮らしを求める方に空き家提供という形が主になるのでしょうか。そのために、新本の場合はこの7月から学童保育ができて、いくらか子育て施設の支援もあるし、上下水道もありますから、来ていただく、戻ってきていただくことを進めていこうということです。スクールバスを出してくれるのかという声もありましたが、現実問題、スクールバスはできませんので、親御さんが連れてきて、学童保育に預けることになると思います。

米谷委員長 池田小の入学式に行った時に、あんなのこのところの子供を戻しいやとかという話があつて、地域の方も動いて、実際に努力されている。一緒に歩調を合わせながらということでは言われていました。

下山委員 川西の私達世代の方が、我が子を呼び寄せる時には田んぼに家を建てることのできるけど、関係のない外からきた人が住みたくても、土地を買いだいたいけど買えないとか、土

地を売りたいけど売れない。そういう枠を外してくれないと、家が建てられない、定住促進はできないと言っていました。

矢吹教育次長 農地の売買は禁止されておりますので、現実には、今家が建っている所をどうかするかです。空き家が古いなら、そこを倒して建てるか、今の空き家をそのまま提供してもらって、手をいれて住むかとかいうしか選択肢がないのが現実です。

三宅委員 住む場所がないのであれば、市営住宅はできないのですか？

矢吹教育次長 市営住宅は今潰しているところなので、現実には難しいでしょうね。

米谷委員長 両方で足並みを揃えながら少しずつ進めていくしかないですね。

米谷委員長 次に「頑張る学校応援事業について」事務局から説明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑なし】

米谷委員長 次に「特別支援教育の充実について」事務局から説明をお願いします。

東学校教育課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

米谷委員長 割合的には小中だったらだいたい2：1になりますか？中学の方が少ないですか？

山中教育長 比率としては中学校の方が少ないですね。

東学校教育課長 小中別ですと、小学校の方が多いです。中学校になると、自閉情緒学級でないと難しいかなというお子さんが総体的に減ってきます。数字を言いますと、この通常にいる支援を要するお子さんは、700人のうち小学生が530です。中学生が170。2対1よりも小学生の方が多いです。それから支援学級については、小学生が191に対して中学生は59です。

米谷委員長 年齢が進むにつれて消滅する場合と、もう一つは、最近そういう子供が増えていくという、2つの捉え方がありますよね。やっぱり年齢別に見ると低学年になるほど多い傾向ですか。

東学校教育課長 学年別に整理したデータを持っていませんが、例えば、小学校まで自閉情緒の学級にいましたが、中学校に上がる頃には通常に戻っていくお子さんが毎年何人も出ています。小学校の中学年から高学年に上がる時にそういう対応を考える人もいますし、特別支援学級できめ細やかな対応をしていく中で、発達・成長がみられた方で戻っていく方が出ていますので、上の方の学年になったら総体的に少し減っていくというのはあると思います。経年的に見たら、全体的に増えているのではないかと思います。

三宅委員 個人として対応していますと、中学では支援は要らないといった方で、学校に行けなくなった方もいらっしゃいます。良くなっていく方もいらっしゃいますが、そのままと

いう方もいらっしゃると思います。中学になって環境ががらっと変わると、駄目になっていく子供と、うまく適応できている子供とがいるので、小中の連携が非常に大切になってくると思います。また、幼・小の連携も、保育園・小との連携も非常に大切になってくると思いますので、そこでの細かい指導や対応をしていただけたらと思います。できれば、支援学級ではなく通常でも、ある程度の支援を受けながら生活できるようにしていただけたらと思います。

東学校教育課長 まさに、誰もが行きたくなる学校づくりで力を入れているところがその辺りで、今、幼小や保小についても情報がしっかり伝わり、きめ細かい対応ができるようにと取り組んでいます。全体的に、この黄色い部分の方についても、個別の教育支援計画を一人一人について作りなさいという指示があり、これまでは義務的にはこの学級にいるお子さんだけだったんですが、全部することになってきたので、対応しないといけないと思っています。

米谷委員長 平成29年度に向けて進められて、随分具体的に方針もされているということですので、今後、更なるいいものにしていただければと思います。

米谷委員長 次に「幼稚園の預かり保育の拡充について」事務局から説明をお願いします。

河相こども夢づくり課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

米谷委員長 追加の資料の、総社小ほか4小学校で3年生までの募集とあるんですが、4、5、6年生で希望されている家庭はないですか。制度が変わったから全学年になりましたね？

河相こども夢づくり課長 27年度については、引き続き3年生までの募集で留めていたので、実際どれぐらいの方の希望があったかが把握できていない状況ですが、今回、長期休暇中のクラブにつきましては、現在通所している方についてアンケートをとってみました。アンケートの結果は、50人程度の方が利用したいと返ってきております。アンケートは高めに出る傾向がありますので、実際蓋を開けて見ますとそこまでの利用はないかもしれませんが、ある程度の利用希望はあるというところがございます。

米谷委員長 3年生の保護者の方に、来年度どう考えられているかというのを聞けば、実際の見込み数は出てくると思います。困られている方がいれば、やはり地域によって違う状態にあるのは変な話だと思います。

米谷委員長 他に何かご質問等ございますか？

下山委員 放課後児童クラブの場合、広域利用ができるということで、交通手段が気になっています。雪舟くんと言われたんですが、交通費等の負担は保護者ですか？

それから、預かり保育の実施園が、前回話に出ていた西部へも東部へもということで、服部、久代が増えたということは嬉しいことです。その下の※印で書いている市内全地域から通園可能という意味は、例えば三須に籍はあるが、服部に預かり保育があるので服部幼稚園に行かせることも可能という意味ですか？

河相こども夢づくり課長 雪舟くんの利用料金は、小学生は200円で今年度は市が半額助成していますので、保護者の方には100円の負担をいただいています。来年度以降の移動手段については、雪舟くんでは国庫補助を受けられませんが、タクシーを活用すると国庫補助が受けられる制度になっていますので、そういったことも検討していかないといけないと思っております。

先ほどの預かり保育につきましては、市内全域から就園可能というのは、先ほど仰られたとおり、三須に就園する住所地にお住まいの方でも、働いていて服部幼稚園の預かり保育を利用したいと希望されれば、区域外就園が認められるということでございます。

米谷委員長 他にございませんか？

小鍛治委員 場所によっては、定員がいつもオーバーする、早い者勝ちみたいになっている所があるんですが、他所の空いている所へ行くことはできないんですか？井尻野地区で無理で、北の方へ行きたいと言ったら、駄目だったということを知ったことがあります。

河相こども夢づくり課長 いっぱいだったのでその日は他所の園を利用するという事は、これからも難しいかと思えます。子供さんのことも考えますと、普段通っていない幼稚園にその日だけ通うというのは、なかなか難しい問題かと思えます。ただ、今回から3歳児の預かりも始めますので、3歳児分の定員を10人と、4・5歳児の定員20人、計30人で各園行って参ります。また、総社南幼も行いますので、常盤に区域外就園をされている方は、自園にお戻りになることもできます。井尻野も利用が多いということを知っていますが、北と井尻野の中で多い少ないというのは、なかなかこれからも解消は難しいかもしれません。基本的には就労されている方を優先的に利用していただくようになって参りますので、一時的な利用の方がなかなか利用し辛くなるという面は否定できないかもしれません。

米谷委員長 次に「第3次総社市子ども読書活動推進計画について」事務局から説明をお願いします。

柚木生涯学習課長 【事務局説明】

米谷委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

三宅委員 図書館の利用人数というのは結構多いですか？年間の利用冊数は？

柚木生涯学習課長 データがないので申し訳ないんですが、図書館に関しては、今エレベーターの工事をしまして、利用者に迷惑をかけておりますが、2月末に完成いたしますので、それに伴って2階に子供の読み聞かせルームを移設させていただきますので、読書活動は、今よりも便利になると思います。

米谷委員長 この計画書のアンケート結果をみると、増えつつある傾向があると読み取れますし、冊数も増えているとか好きな子も増えているとか、具体的な数字をまた機会がありましたらどれくらい達成されているのか教えてください。それから巡回文庫もいいですね。

下山委員 ノーテレビ、ノーゲーム週間を設けることは、いい生活習慣にも繋がるし、読書

をすることは読解力にも繋がります。学力向上ということが全面に出るのではなく、読書も平行して続けてほしいと思います。

ブックスタートという言葉が出ていましたが、親子読書や読み聞かせも進めていくと、これからの子供達の落ち着いた学習に繋がるんじゃないかと思いました。

公民館の図書コーナーの充実について書かれていましたが、自動車文庫が月一回来ますが、まだまだ読みたい人達もいて、公民館や放課後児童クラブの図書コーナーに、図書館のいらなくなった本を回して置いていただけたらいいなと思いました。

米谷委員長 ご意見ありがとうございます。文字を読みながら想像力を使うというのはいいですね。

米谷委員長 他に報告事項等はありませんか。

尾崎文化課長 【イベントの案内及び吉備路文化館への桜、ベンチの寄付について報告をした。】

米谷委員長 桜とベンチはどこにあるんですか？

尾崎文化課長 ベンチは、前が見えやすい所にとということで、吉備路文化館の前面、南側へ置かせていただいています。だから日が当たると暑いです。桜は、一番南側の面でちょっと小高くなっている所へ3本とちょっと下へ低くなっている敷地の一番南側の所へ2本。それから、玄関の階段を上がった所の右手に1本植えさせていただきました。計6本です。

米谷委員長 他にありませんか？

下山委員 先ほど説明があった、特別支援教育センターのイメージ図を見ながら動きを確かめさせていただきたいと思います。まず、その学校の場合は、通常学級からことばの教室に教科の授業を抜けて行きますよね。総社小の場合、書写の時間にことばの教室に行かせていました。通級指導教室の特別支援教室へは、通常の学級からは、授業のどこかを抜けて行くのだと思いますが、他校から通級指導教室へ行くイメージがわかりません。ことばの教室へ行くのであれば、放課後、親が連れて行きますが、他校の児童で、自閉情緒の教室がない場合は、通級指導教室へ行くのに放課後に親が連れて行くんですか？

東学校教育課長 まだ自分も完全に具体的なイメージややり方が頭に描かれているわけではございません。実は総社市よりも大きな市、岡山市、倉敷市、津山市には、こういうものがあります。それから中学校にもあるそうです。比較的新し目にできていて、ハード的にも組織的にもしっかりしているのが津山北小ということです。実は今日視察に行くんです。聴言情と言って、聴覚言語障害、それから自閉情緒の研究会があります。そういう細かい運用ややり方も、キーマンになっている副校長先生からいろいろヒアリングをさせていただこうと思っています。また次の時に報告をさせていただきます。

米谷委員長 それでは、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり、11月17日午前9時15分から開催いたしますので、ご参集願います。

米谷委員長 この際、12月の教育委員会の日程を調整 いたしたいと思いますが、事務局

から提案願います。

(12月の教育委員会について日程調整)

米谷委員長 では、12月の教育委員会は、12月25日午後1時から開催いたします。

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午前11時15分